

活字のブランドPIN MARK

さて、皆さんはピンマーク（ドイツ語ではグスマルケン(Gussmarken)）と呼ばれる活字の側面に刻印されたマークや記号をご存じでしょうか？今回は活字が製造された長い歴史の中でほんの短い時期のみに出現する、ニッチなピンマーク活字のお話です。

「PIN MARK」ピンマークとは

ピンマークはもともと15世紀中頃からのハンドモールドと呼ばれる手作業による活字製造の黎明期から、活字を鋳型から確実に離す（取り出す）ために機能する「窪み」（ドラッグ・ピンとも呼ばれる）として存在していたようです。ピンマークとして印刷関係者に多く認知されるようになるのは鑄造機の機械化に伴い、この「窪み」に会社のイニシャルやマーク意匠を施し、商標として多く使用されるようになった1840年頃からで、その意匠はより裝飾的なものに昇華していくことになります。



① それでは、印刷博物館が所蔵する活字の中から、ピンマークの種類を簡単に説明します。ピンマークは、欧文・和文活字や木製活字にも存在します。欧文活字のピンマークは種類も多様で、時代や活字サイズによっても表示が変わり、鑄造所の創設者名、社名の記号、鑄造場所、活字のサイズ等が刻まれます。和文活字のピンマークも同様に経営者や社名の頭文字を刻印したものが多く、また、木製活字は鑄造工程の最後に「A・a」の文字だけに鑄造所名やマーク、書体番号などがバ

ンチ（型押し）で打ち込まれたものが散見されます。私たちはこれらのピンマークから、その活字がつくられた鑄造所や製造時期を推定する手がかりとしているのです。

鑄造機の進歩とピンマークの興隆

ピンマークの出現には鑄造機の進歩が密接にかかわっています。ここからはアメリカでの鑄造機の発明と欧文活字のピンマーク興隆について見ていきたいと思います。アメリカでは1776年の「独立宣言」後もしくはしくはヨーロッパからの印刷技術や機械の輸入に頼っていましたが、しかし1800年中頃になると今度は逆にアメリカから新しい技術や機器を創り出し、海外へ輸出していくことになりました。1838-45年にデヴィッド・ブルース2世がポンプで鑄型に鉛合金を流し込む手回し活字鑄造機を発明し、特許を取得します。これは当時としては画期的な鑄造機で、今まで手作業で行っていた鑄造工程を初めて機械化することで生産効率を飛躍的に向上させ

ました。手でハンドルを半回転させると母型がセットされた鑄型に溶けた鉛合金（地金）が流し込まれ、次の半回転で鑄型が開き、上鑄型^{※1}の突起ピンマーク部分に活字がついた状態で持ち上げられ、受け皿に落とされます。落とされた贅片^{ぜいぺん}が切落とされて、活字が出来上がります。この鑄造機はすぐにさまざまな改良が加えられ、ブルース型として複製され全世界に拡散されていきます^{※2}。この鑄造機に必要な不可欠な機能であったピンマークも共に広がり、まさに1900年までがその黄金時代と言えるでしょう。

著作権保護とクローン書体

1838年にロシアで電気鑄造法（Electrocasting）^{※3}が発明されると活字の鑄造技術にも応用され、多くの鑄造所で簡単に母型や活字を複製できるようになります。また、技術革新による活字鑄造の機械化も拍車をかけて、堰を切ったように不正な海賊版活字が乱造されます。イギリスでは1842年に裝飾デザイン法（The Ornamental Designs Act）^{※4}が施行され、1876年には初めて活字モデルの意匠特許が発効されますが、法規制だけでは複製乱造を止めることはできません。また、著作権保護の欠如は新しい活字を生む活力をも削ぎ落してしまいます。このような時代だからこそ、各鑄造所は各々のアイデンティティを守る意味でピンマークによるブランド訴求に重点を置くようになります。まず、イギリスで正統活字としての証明として、意匠登録済の Registered、略号「Rd」をピンマークや活字面の空きスペースにまで刻印するようになりま。そして、欧米の鑄造所や日本でも屋号とともに専売特許を謳うピンマークが確認されています。



技術革新とピンマークの衰退

アメリカでは1860年代に本格的な電力による産業革命時代を迎えます。これに伴い数多くの鑄造所が全米に乱立し、まさに活字の大量生産が本格化します。1885年にヘンリー・パースにより鑄造は自動化され、活字を横方向に自動排出する装置が開発されると、早くもピンマークが果たした機能は必要なくなりま。アメリカは1890年代にはついに世界最大の工業国となるのです。しかし、皮肉にも技術革新による活字の過剰生産が過当競争の激化を引き起こします。活字の価格は劇的に下落し、鑄造所は悲惨な価格競争の波にもまれ、統廃合が加速します。ついに1892年に鑄造所23社の合併によってアメリカン・タイプ・ファウンダーズカンパニー（以下A.T.F.社）が設立されるのです。A.T.F.社は1902年から1906



いかがでしたか。活字文化が花開いていく、その一時代を華やかに彩ったピンマークは、それぞれの鑄造所の誇りや名譽が刻まれた、まさに「兵どもの夢の跡」とも言えるのではないのでしょうか。

（印刷工房 インストラクター・研究員 木谷正人）

